

豊かな未来を切り拓く子供の育成Ⅱ

～新たな価値をつくり出す

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業を通して～



社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じ、子供たちは、予測困難な時代を生き抜いていかなければなりません。新たな課題に遭遇したとき、これまでの経験や学びを生かして新たな考えをつくり出し乗り越えていかなければなりません。そのような時代を生き抜く子供たちへ「笑顔で瞳を生き生きと輝かせながら、様々な社会的変化を乗り越えて、豊かな未来を切り拓いていってほしい」という願いを私たちはもっています。



鹿児島県総合教育センター一研究提携校

鹿屋市立鹿屋小学校

I 研究の構想

豊かな未来を切り拓く子供

目指す子供像

学ぶ意義を実感し、学び続けて意欲的に自己実現を目指していける子供
(自己理解・自立)

課題解決につながる新たな価値を生み出し行動していける子供
(創造)

仲間を尊重し、仲間と協働的に聞き合ったり学び合ったりして解決していける子供
(他者理解・協働)



新たな価値をつくり出す

解決に役立つ納得できる考え(解決策)や新しい考え(解決策)をつくり出せたことを実感する。

学びの姿の設定

指導の手立ての充実

研究の視点

個別最適な学び

目的意識をもって、自立的に学習を進める。

見方・考え方を働かせた学び

見方・考え方を働かせて、汎用的な解決の仕方を見いだす。

協働的な学び

学び合って、自分の考えを広げ深めよりよくする。



「見方・考え方を働かせた学び」を軸に、「個別最適な学び」を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させます。これらの充実により、子供たちは、自立的に学習する経験、自分の考えをよりよくする経験、見方・考え方を働かせて解決の仕方を見いだす経験を積み重ねます。

そうすることで、解決に役立つ納得できる考え(解決策)や新しい考え(解決策)を自分でつくり出したことを子供は実感し、新たな場面においても、経験を重ねた学びを使って豊かな未来を切り拓いていける子供に迫ることができると考えます。

II 研究の視点

見方・考え方を働かせた学びを充実させるために

- 子供が各教科等における見方・考え方を働かせて、学びを相互に関係付けて理解することができるようにしたり、見方・考え方を働かせて、納得できる考え(解決策)や新しい考え(解決策)をつくり出して解決したりすることができるように、教科等の本質に迫りながら学びの深化を図ろう！

個別最適な学びを充実させるために

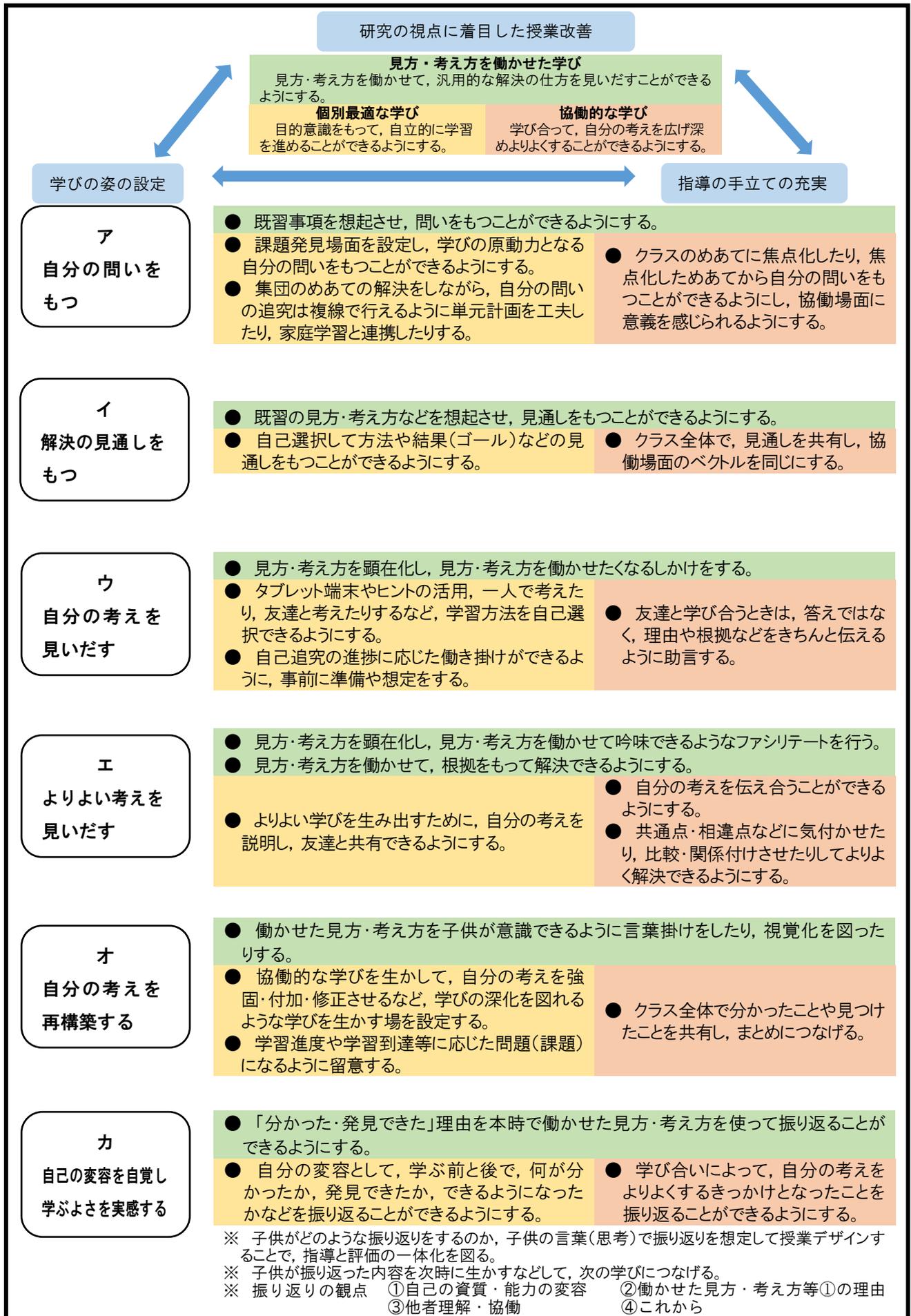
- 子供が自己調整しながら、目的意識をもって自立的に学習を進めることができるようにしよう！
- 子供各々の興味・関心や、このような自分になりたい・このようなことができるようになりたいという一人一人に応じた学習活動・学習課題を設定して学習の個性化を図ろう！
- 必要に応じて一人一人に合った指導方法を工夫して指導の個別化を図ろう！



協働的な学びを充実させるために

- 多様な他者と協働し異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出し、よりよく解決することができるようにしよう！

Ⅲ 研究の内容



研究の視点に着目した授業改善

- 見 読みを深めるための言葉による見方・考え方を働かせて、教材以外の文章でも読みを深めることができるような汎用的な解決の仕方を見いだすことができるようにする。
- 個 授業のねらいに応じた国語の学習のゴールを設定し、目的意識をもちながら自立的に自分の問いを追究できるようにする。
- 協 叙述を基にした友達の考えから、共通点や相違点を見付けたり、関係付けたりして、自分の問いを広く深く追究できるようにする。

第4学年 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合って紹介しよう
(教材名「ごんぎつね」光村図書)

○ 目標 (本時 8/12)

自分の問いに対して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

時間	単元計画
1	本単元の言語活動のモデルを見る。①
2	「ごんぎつね」を読んで「問い」をもち、学習計画を立てる。①
3,4	「ごんぎつね」の大まかなあらすじをつかむ。②
5	一つの問いに対し、全体で読み深め、考えをまとめる。①
6,7	自分の問いを個人で追究する。②
8	同じ問いをもつ友達と自分の問いを追究し、読み深める。① (本時)
9	自分の問いについて、再度、個人やグループで読み深め、他のグループに紹介する。①
10	残った疑問や新たな問いなどについてクラス全体で読み深める。①
11	物語を通して考えが深まったところや広がったことを、メッセージカードに書き表す。①
12	メッセージカードを友達と交流し、単元の学習を振り返る。①

見方・考え方を働かせる
しかけの工夫

学習意欲と単元全体の学習の見通しがもてるようにする。「問い」が身に付けさせるべき資質・能力や働かせる見方・考え方から逸れないように、モデル文にしかけをする。ここでは、「不思議に思ったこと」、「疑問に思ったこと」などが盛り込まれたモデル文を示す。

過程	主な学習活動
問いをもつ・見通す	<p>1 自分の問いを振り返る。</p> <p>① なぜごんはつぐないをくり返したのか。 ② ごんと兵十は、それぞれの場面でどんな気持ちでいたか。 ③ クラスマックス場面でのごんと兵十はどんな気持ちだろう。</p>
	<p>2 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>登場人物の気持ちは、どのように読むと分かるだろうか。</p>
自分の考えをもつ・広げ深める	<p>3 学習の流れを確認する。</p> <p>4 グループに分かれ、それぞれの問いについて読み深めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、「青白いけむり」のところから、ごんは悲しい気持ちだったと思うよ。 ・ 私は、○の場面と○の場面をつなげると、ごんは撃たれたけど、気付いてもらえてうれしかったと思うよ。
	<p>5 今日の学びを他のグループに報告する。</p> <p>6 学習のまとめをする。</p> <p>登場人物の「行動」や「気持ちの変化」、「情景」などに着目したり、場面を比べたりして読むと登場人物の気持ちが分かる。</p>
再構築する・振り返る	<p>7 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。</p> <p>クライマックスの場面のごんの気持ちが分かりました。それは、けむりの色に着目して考えたからです。青白いので悲しいと思いました。 ○○さんは、前の場面と結び付けて、ごんは気付いてもらえてうれしいと考えていました。 着目した言葉や場面で、登場人物の気持ちの考えが人によって違うから、もっといろいろな人の考えを聞いて「ごんぎつね」をもっと考えたいと思いました。</p>

自分の問いをもたせるときの工夫

初発の感想を話題に出し、初めて文章を読んだ時の気付きに着目させ、自分の問いにつなげるように指導・助言する。その問いをクラス全体で解決していく問いに整理していく。

前時までの振り返りカードや板書を電子黒板に提示することで、今までの学習を振り返り、自分の問いを明確にすることで、本時のめあてを焦点化していく。

叙述を根拠に考える工夫

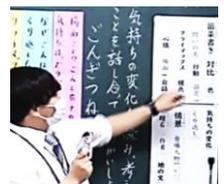
根拠となる叙述に線を引いたり、叙述を基に考えや理由を話し合わせたりすることで、「言葉による見方・考え方」を働かせて考えることができるようにする。

共有から自分の考えの深化を図る工夫

個人、ペア、グループ、全体など様々な学習形態で学習することを通して、自分の考えをクラス全体で共有できるようにする。叙述に基づいた考えの共通点や相違点をグループやクラス全体で比べたり、関係付けたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

見方・考え方を意識化させる工夫

学習したことを明確にするために、国語の学習用語(国語の虫めがね)を使ってまとめることができるようにする。



研究の視点に着目した授業改善

- 見** 問題解決するための数学的な見方・考え方を働かせて、新しい場面においても問題解決することができるような汎用的な解決の仕方を見いだすことができるようにする。
- 個** 授業のねらいに応じた算数の問題を見いだす場面を設定し、目的意識をもちながら自立的に自分の問いを追究できるようにする。
- 協** 様々な数学的な表現から、共通点や相違点を見付けたり、関係付けたりして、自分の問いを広く・深く追究できるようにする。

第3学年 1けたをかけるかけ算（学校図書）

○ 目標（本時2/10）

数量の関係に着目して、（2位数）×（1位数）の計算について被乗数を分解するなどの方法で、九九が使えるようにして答えを求めることができる。

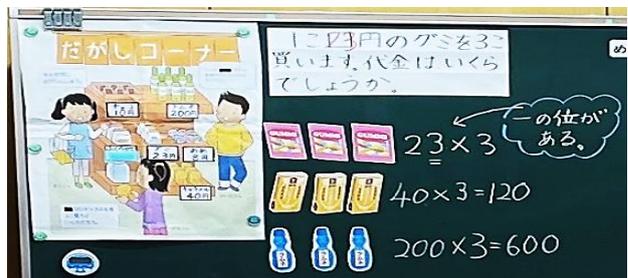
過程	主な学習活動
問いをもつ・見通す	1 学習課題を把握する。 1こ10円のグミを3こ買います。代金は、全部で何円でしょうか。 ・昨日みたいに40円とかだったら計算できるよ。 ・100円とかでもできるよ。
	2 自分の問いをもつ。 ・23円？ ・昨日とちがう ・一の位がある。
	3 学習問題を焦点化する。 一の位が0ではない何十何×何の計算は、どうすればもとめられるだろう。
	4 学習の見通しをもつ。 ・20と3に分けられるよ。（ワッケル） ・図に表したらいいよ。（ベツアラワシ） ・昨日と同じように計算できそう。（オナジン） ・23を分けて計算すればいいよ。 ・筆算もあるよ。
自分の考えをもつ・広げ深める	5 自己選択した方法で考える。 ・ノートに自分の考えを書く。 ・図や補助プリントを使って、考える。
	6 自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりする。
	7 全体で考える。 20が3つで60。 3が3つで9。合わせて69。 $\begin{array}{r} 23 \\ \times 3 \\ \hline 69 \end{array}$ 23×3 $2 \times 3 = 6$ $3 \times 3 = 9$ 合わせて69 ●●●●●● $2 \times 3 = 6$ 1つの●を10と考えれば、 20×3だから 20×3=60。 23×3 20×3=60 3×3=9 合わせて69 (キーワード) ・20と3に分けている。 ・十の位と一の位に分けて計算している。
再構築する・振り返る	8 本時の学習のまとめをする。 十の位と一の位に分けて計算すると、もとめることができる。
	9 適用問題に挑戦する。
	10 本時の学習を振り返る。 (想定した振り返り) 十の位と一の位に分けて計算すると、一の位が0ではない何十何×何の計算ができた。最初は、どう分ければいいか分からなかったけど、○○さんの考えを聞いて、20と3に分ければ計算できることが分かった。使った見方・考え方モンスターは、ワッケル、ベツアラワシ、オナジンでした。かけ算も、たし算みたいに筆算できるのか知りたいです。

学習課題提示の工夫

学習課題の数字を□で隠すことで、子供の問題意識を高められるようにする。

見方・考え方を働かせて自分の問いをもたせる工夫

子供が自分の問いをもつことができるようにするために、既習との数字の違いに着目させる。



子供の言葉をつなぐファシリテーターとしての教師の役割

友達の説明をしっかりと理解しているかを確認するために、板書する子供と説明する子供を分けたり聞き取った発表を自分の言葉で友達に説明したりする時間を設ける。

教科の本質に迫る汎用的な考えや納得解を導き出すために、子供の言葉、つぶやきをつなぎながら「問い返し」発問を教師は意識している。

(問い返し発問の実際)

- T. 友達が黒板にかいた式の意味がわかるかな。
- C1. 23を2と3に分けてそれぞれ3をかければいいです。
- T. 2と3に分けるってどういうことかな。
- C2. 23を20と3の十の位と一の位に分けるといことです。
- T. なるほどね。なんで十の位と一の位に分ければいいのかな。
- C3. 今までに学習した九九が使えるからです。

数学的な表現（式、図、表、言葉など）の関連付け

子供が問題場面を式だけでなく、必要に応じて数学的な表現を自己選択して表現し、複数の数学的な表現を関連付けることができるように、複数の数学的な表現を板書している。

振り返りの想定から構想する授業デザイン

事前に単元や本時で働かせたい数学的な見方・考え方を教師が明確化したうえで、子供の振り返りの想定を行う。その記述内容から、本時の指導と評価の一体化を図り、授業改善にもつなげることができる。

①友だちと考えるときに、前の考えと同じように20と3に分けて計算すると、答えをもとめることができた。

児童の振り返りの記述

研究の視点に着目した授業改善

- 見 コミュニケーションを深めるための外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、新しい場面においてもコミュニケーションを図ることができるような汎用的な解決の仕方を見いだすことができるようにする。
- 個 授業のねらいに応じた外国語によるコミュニケーションの Big Goal を設定し、目的意識をもちながら自立的に自分の問いを追究できるようにする。
- 協 外国語で表現し伝え合うための様々な情報を整理したり、自分の表現に友達の表現のよいところを付け加えたりして、自分の問いを広く・深く追究できるようにする。

第6学年 We all live on the Earth. (東京書籍 NEW HORIZON)

○ 目 標 (本時 4/8)

【単元】 フィジーから来た ALT のエディ先生に、奄美大島の魅力を知ってもらうために、そこにいる動物が食べているものや住む場所について、友達と紹介し合ったり、尋ね合ったりして、自分の考えや気持ちを話すことができる。

【本時】 知識を使って、奄美大島の動物やその食べ物、住む場所について Animals lives in~/ Animals eat~/ Where do animals live?/ What do animals eat? などを用いて、考えや思いを表すために必要な技能を身に付けている。

時間	単元計画
1	①教科書資料ページを活用し、地球上の生物や食物連鎖について考える。 ②ALTからのビデオレターを視聴する。③単元の見直しをもつ。
2	①Small Talkを行う(好きな動物)。②教師のお手本を見たり、教科書の音声を読みたりして基本的な表現について慣れ親しむ。③自分が発表したい動物について調べる。
3	①Small Talkを行う(好きな動物クイズ)。②試しの発表を行う。③音声で基本的な表現に慣れ親しむ、発表に使えるような文を書き写したり、考えたりする。
4	①Small Talkを行う(動物3ヒントクイズ)。②動物の食べ物や住む場所についてカードを使い、友達とやり取りをする。③試しの発表をする。
5	①Small Talkを行う(動物の住む場所)。②知りたい動物についてくわしく調べ、試しの発表を行う。
6	①Small Talkを行う(動物の食べ物)。②タブレット端末で発表の資料を作成し、発表の練習をする。
7	①Small Talkを行う(食物連鎖)。②発表の練習をする。③ミニテストをする。
8	①奄美大島の生物についてALTに発表する。②単元の振り返りを行う。

過程	主な学習活動
問いをもつ・見通す	1 あいさつをする。
	2 クラスルームイングリッシュの練習をする。
	3 Small Talk “Where do animals live?” をする。 (1) ペアでやり取りをする。 (2) どんな既習表現が使えるかを確認する。 (3) もう一度ペアを変えてやり取りに挑戦する。
	4 Big Goal と Today’ s Goal を確認する。
自分の考えをもつ・広げ深める	5 Who am I?ゲームをする。 (1) 教児でクイズを行う。 (2) 子供同士でクイズを行う。
	6 Let’ s try2 を通して表現を練習し、試しの発表を行う。 (1) 教科書の音声を繰り返し聞いて慣れ親しむ。 (2) 動物が住む場所や食べ物について、写真カードを見ながら英語で友達に尋ねたり答えたりする。 (3) 自分のやり取りの様子を振り返りカードに記入し、どんな学びが必要か明確にする。
	7 Let’ s read and write に取り組む。
再構築する・振り返る	8 Sounds and Letters に取り組む。
	9 学習したことを振り返る。 ・ 動物の食べ物や住む場所を伝えられるようになった。 ・ 知っている食べ物や色を使うと動物も紹介しやすいと思った。
	10 おわりのあいさつをする。

自分の問いをもたせる工夫

まずやり取りをしてみることで、自分の問いを明確に捉え、意欲を高くもって本時の学習に参加できるようにする。

見方・考え方を働かせる工夫

Small Talk を通して既習事項を使い、工夫して相手に自分の思いを伝えることができるようにする。

自分の表現をよりよくする工夫

分からない表現を出し合い、どのような言い方ができるかを友達と一緒に考えることで、もう一度やり取りをする時に使えるようにする。

目標の達成に向けた工夫

誰に、どんな目的で何を伝えるのか、その場面や状況を明確に意識させることで、全員が確実に目標の達成ができるようにする。

表現をよりよくする見直しをもたせる工夫

子供が見直しをもって活動できるよう、「この表現が言えるようになったら、発表に生かせそうだね。」などと声かけをする。

振り返りの充実の工夫

振り返りカードに自分の姿を数値化し、どんなことをもっと伸ばしていきたいか記入し、学びを自覚化できるようにする。

相手意識や場面、状況などを意識して考えさせる。

自分の変容に気付かせる工夫

「最初よりできるようになったことが増えているね。」と声かけし、達成感を味わわせ、意欲を高めるようにする。



特別支援教育

個 個別最適な学び

協 協働的な学び

回 日常と学びの運動

研究の視点に着目した授業改善

- 個 自らの課題を改善・克服するためにはどうすればよいかを考える課題把握場面の設定により、目的意識をもちながら主体的に自分の課題を改善・克服しようとする意欲をもてるようにする。(活動計画や導入の工夫・構造的な板書やワークシートの工夫)
- 協 協働的な学びにより、自己理解と他者理解を深めながら、自己肯定感を高めたり、達成感を味わったりすることで、自分の課題を改善・克服できるようにする。(子供たちが関わり合う場の設定と即時評価)
- 回 日常生活における自分の困りを改善・克服していくための方法を見いだし、その選択肢を増やししながら、実践していくことができるようにする。(振り返りの充実)

自立活動 「気持ちすっきり名人になろう」

○ 目標 (本時 6/9)

全体目標

- ・ 勝敗のあるゲームを行う中で、勝ち負けが生じる苦手な状況で不安定になったときに、自分で選んだ気持ちのコントロール方法を試しながら、自分に合う方法かどうかを考えることができる。
- ・ 自分の気持ちの状態を表情カードと心のメーターを活用して考えながら、ゲーム中に気持ちのコントロール方法を実践するかどうかを教師に伝えることができる。

個人目標

- (A児)・ 勝敗のあるゲームを行う中で、思い通りにいかず不安定な状態になったときに自分で選んだ気持ちのコントロール方法を試し、効果があるかどうかを発表することができる。
 - ・ 教師の言葉かけを受けて、自分の気持ちの状態を心のメーターを基に考え、自分で選んだ気持ちのコントロール方法を実践するかどうかを伝えることができる。
- (B児)・ カルタ取りを行う中で、思い通りにいかず不安定な状態になったときに、これまで自分に効果があると思った方法や自分で選んだ気持ちのコントロール方法を試し、効果があるかどうかを考え、発表することができる。
 - ・ 教師の言葉かけに対し、ゲーム中に気持ちのコントロール方法を実践するかどうかを伝えることができる。

過程	主な学習活動
問いをもつ・見通す	1 はじめのあいさつをする。
	2 活動計画を確認し、活動を振り返る。
	3 本時の流れを確認する。 (1) カルタ取りの進め方と約束を確認する。 (2) カルタ取りを3回する。 (3) 気持ちのコントロール方法を試してみて、考えたことを発表する。 (4) 「気持ちすっきりカード」を書く。 (5) 頑張ったことをワークシートに書く。 (6) 次に試したい気持ちのコントロール方法を選ぶ。
	4 本時のめあてを確認する。 カルタとりをする中で、自分がえらんだ(気持ちのコントロール方法)をためして、(自分に合う方法)を考えよう。
自分の考えをもつ・広げ深める	5 カルタ取りの進め方と約束を確認する。 (進め方) (1) 椅子に座って、机の上に置かれたカルタを取る。 (2) 教室の端に離れて、机の上に置かれた札を取りに行く。 (3) ゲストが加わって、3人で机の上に置かれた札を取る。 (約束) → (省略する)
	6 前時で決めておいた自分が試してみたい気持ちのコントロール方法を確認する。
	7 気持ちのコントロール方法をどのタイミングで使うとよいかを教師と一緒に確認する。
	8 カルタ取りを通して、気持ちのコントロール方法を実践する。 (1) カルタ取りをする。 (2) 落ち着かないときに自分の選んだ気持ちのコントロール方法を試してみて、思ったことを発表する。
再構築する・振り返る	9 自分に合っている気持ちのコントロール方法を「気持ちすっきりカード」に書く。
	10 活動を振り返り、頑張ったことをワークシートに書いて発表する。 ・ 気持ちのコントロール方法を試せた。 ・ () をしたら、気持ちが落ち着いた。 ・ () するのが、自分に合った方法だった。 ・ Bさんの方法を自分も試してみたいと思った。
	11 次時に実践したい気持ちのコントロール方法を選び、次時の予告を聞く。

自分の問いをもたせる工夫

活動計画を示しながら、学習を振り返ることで、本時の内容を明確にし、学習意欲や目的意識をもたせる。
 T:「自分の気持ちのコントロール方法を勉強してきたね。」
 T:「気持ちすっきり名人ってどんな人。」
 C:「すぐに気持ちを切り替えることができる人。」
 C:「気持ちすっきり名人になりたい。」



自分の考えを見いださせる工夫

心のメーターを使って、気持ちの状態を視覚化することで、自分の気持ちの状態を考えやすくするとともに、どの段階で「気持ちすっきりカード」を活用すれば不安定にならずに済むかを考えやすくする。

よりよい考えを見いださせる工夫

集めた方法の中から、場や状況、自分が取り組んでみたい方法を選ぶことができるようにする。そして、勝敗のある活動を通して、自分に合っているか考えながら、気持ちが落ち着いていくかどうかを試したり、友達との感じ方の違いに気付いたりすることができるようにする。

振り返りを充実させる工夫

友達のよさを互いに伝え合ったり、自分の達成できたことや頑張ったことをワークシートに記入したりする。
 ・ 自己の変容に気付く
 ・ 友達のよさや考えの違いに気付く
 ・ 個に応じたワークシート
 C:「紙をしゃしゃにしたら、すっきりした。」
 C:「カードが8枚に増えた。」
 ・ 学びの履歴として次の学習や日常生活に生かす

IV 研究のまとめ

□ 児童の実態 R3:6月, R4:6月・12月 2~6年 [グラフ内の数字は肯定的に回答した子供(%)]

4あてはまる 3すこしあてはまる 2あまりあてはまらない 1あてはまらない

見方・考え方を働かせ、考えをつくりだして解決しようとしている！

① 授業で、どんなところに着目したらよいか意識している。	R3 6月	81.0
	R4 6月	81.9
	R4 12月	85.9
② 授業で、どんな考え方で分かったのか、理由を大事にしている。	R3 6月	77.7
	R4 6月	81.1
	R4 12月	85.4
③ 授業で、詳しく調べたり考えたりして、いちばん「なるほど(なっとく)」と思う考えをつくりだしている。	R3 6月	78.7
	R4 6月	82.2
	R4 12月	87.2
④ 授業で、新しい考えや解決の仕方をつくりだしている。	R3 6月	69.0
	R4 6月	76.0
	R4 12月	81.1

目的意識をもち、自立的に学ぼうとしている！

① 授業で、めあてや解決したいことを自分で決めている。	R3 6月	66.0
	R4 6月	70.2
	R4 12月	74.7
② 授業で、どうしたらめあてや問題を解決できそうか、自分の考えをもち、手順や結果を予想しながら取り組んでいる。	R3 6月	77.3
	R4 6月	77.6
	R4 12月	82.3
③ 授業で、自分に合ったやり方で学習をしている。	R3 6月	88.1
	R4 6月	86.0
	R4 12月	90.3
④ 授業で、学習した内容をもっと知りたいと思ったり、新しい疑問が生まれたりしている。	R3 6月	77.3
	R4 6月	78.2
	R4 12月	81.5

学び合い、異なる考えを組み合わせよりよく解決しようとしている！

① 授業で、友達(相手)に、自分の考えや方法を伝えている。	R3 6月	76.2
	R4 6月	80.4
	R4 12月	85.8
② 授業で、友達(相手)の考えや方法の、よいと思ったところを受け入れている。	R3 6月	91.5
	R4 6月	90.3
	R4 12月	91.2
③ 授業で、自分の考えに友達(相手)の考えも取り入れると自分の考えがよりよくなっていくのを感じる。	R3 6月	82.7
	R4 6月	82.4
	R4 12月	82.6

子供の振り返りより【第3学年 国語】

文章の中から「問いの文」を探すときに、言葉による見方・考え方を働かせて、叙述に着目して探している様子が伝わってきます。また、着目する言葉が今までとは違ったという発見が新たな場面での解決に役立ちそうです。「問いの文」を見付ける自分の成長を実感していることも伝わってきます。

えらんだ番号(1)

□ これからの研究の方向 (教師へのアンケートより)

三つの視点の学びにより子供がどんなことを実感し、どんな新たな問いへ向かおうとしているのか「振り返り」の時間をより大切にしたい。そのための時間確保に努めていきたい。「振り返り」を想定した授業デザインに取り組みやすくなるような教師用の授業デザインシートの作成などに取り組んでいきたい。

【R4 研究同人】〈本校職員〉森田勝二(校長) 中島功詞(教頭) 宮崎由衣圭(研修係) 赤崎桂子 粟屋敏郎 伊地知啓一郎 井手健太 伊東奈央 岩屋由美子 上園弘太郎 釘田康恵 草原大 熊野梢 坂元佳子 平世理奈 高橋誠 田村由布子 塚田睦実 水流かほり 徳永智久 戸高正恵 中川淑子 栞山さゆり 濱田梨佳 東美里 平山甲一 福里智子 福田康博 松崎優子 間淵結衣 八木裕太郎 安水理恵子 山ヶ城真一 吉原多佳代 米永聡子 久保田あみ 松原のみ 崎坂百合恵 山口千沙都 坪山麻衣子 梶原美鈴 山元和秋 安藤めぐみ 北郷悦子 東入来孝子 山内明美 吉永亜由美 〈共同研究員〉岡山春奈・緒方康子・口元絵里花・立山唯人・田邊奈菜・松木めぐみ(寿北小) 大崎弘孝(西原台小) 川畑南美(尾野見小) 西育子(鹿屋養護学校)